

深南部縦断 光岳(2591m)～大無間岳(2329m)

2014年7月20日(日)～22日(火)

メンバー：磯部S（単独）

ディープな自然が残る深南部。人の気配はなく、ほとんどが樹林帯のなかで展望も望めず、獣道が縦横無尽に入り乱れ、明るく開放的なアルプスとは真反対な山域である。

しかし、いかにも野生動物たちの領域で遊ばせてもらっているという、自然との一体感のここちよさ。

そこには一歩間違えれば自然から拒絶され、迷い人となりはてしてしまうかもしれないという冒険的要素、非日常性のドキドキ感がたっぷり詰まっている。

単独で入ることこそ、より充実したものとはなるが、リスクも増大するので慎重に行動しなければならない。

基本的注意点は

①天候が悪い特には（ガスっている時）には入山しない・・・視界が狭くなり、周囲の地形が把握できず、読図力が落ちる。

②特に下りの分岐点は事前に地形図上でチェックしておく・・・次に来る迷いそうなチェックポイントを、予測しながら歩く。

③時間に余裕ある計画を立てる・・・焦りは判断ミスを招く。必ずロスタイムはでてる。

④毒虫、熊対策。

7/20（日）曇り

前夜、下山口である栗代林道（寸又峽の東）入口に、電動アシスト自転車をデポ。ここからは大井川を車で遡り、出発地の沼平にて仮眠。初日は長丁場に備え、4:30には出発した。

畑薙大橋を渡り、現在は廃道と化している鳥小屋尾根より茶臼岳を目指す。1700mの高度差を一気に直登するハードコースだ。

ヤレヤレ峠から登り始めたが、ベストな取り付きは畑薙大橋後の急登を終え、トラバース道となる最初の地点だと思う。

踏み跡は薄いが、最後を除いてヤブはほとんどなくテープもあり、登るには迷うところはない。

ただ足首を常に強く曲げ、時にはずり落ちて変な筋肉の使い方をし、標高差以上に体力筋力とも消耗した。



1. 途中、穏やかな畑薙湖を望む

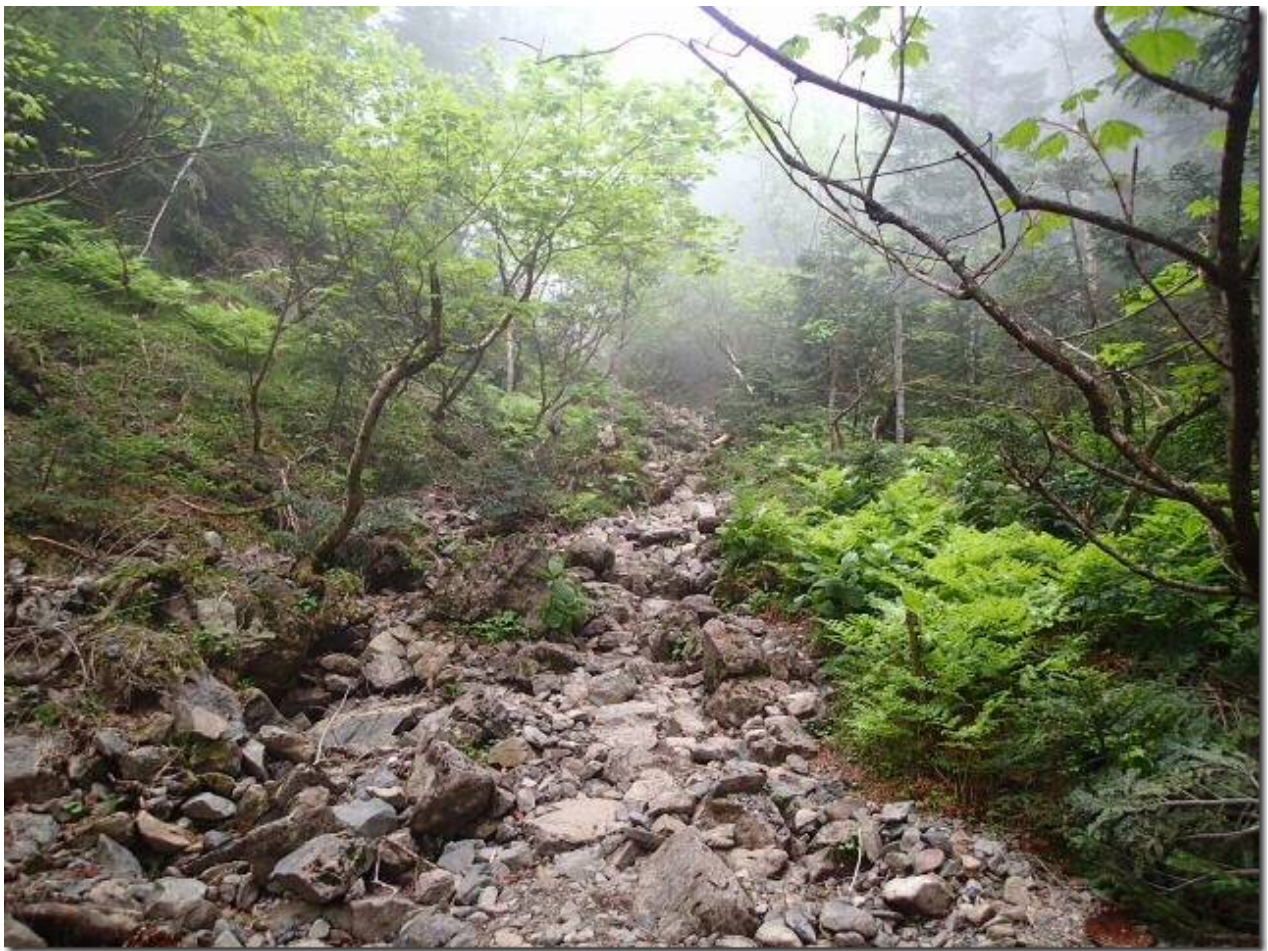


2. 鳥小屋尾根の登り

ラスト約200m、高度差で100mはヤブからハイマツの海となり、1時間近く奮闘後、ストレートに茶臼岳に登頂。

深南部に入る前には誰もいない静かな山域で、気持ちを盛り上げるにはいい流れなのだが、明日からの本番に備えるには、結果的に欲張りすぎの行動だった。

そこから光岳へも長く、最後の光小屋への長い沢筋の登りは根性だった。小屋手前の水場は大量に出ていて、明日のために4Lほど背負う。小雨も降ってきたが、合間を見てテント場にビビーシェルターをささと設営。軽くて大好きな一人用テントだが、雨には弱い。。



3. 光岳へ向かう沢筋の登り



4. 光小屋手前の水場

<タイム> 沼平 (4:30) - ヤレヤレ峠 (5:50) - 茶臼岳 (11:50) - 光小屋 (16:10)

7/21 (月) 曇り

今日はいくつものピークを越えるため、長い行程だ。5時には出発予定だったが、あいにくガスっているため待機。

深南部にその状況で突っ込むのは危険であるが、天気図からも回復傾向は予測できるため、比較的道がわかりやすい信濃俣(2332m)まで行ってみることにする。

小屋を出てすぐ光岳への道を左折し南下。いきなり一人きり自然のまっただ中だ。特にここ一帯大井川源流部は、本州唯一の原生自然環境保全地域に指定されているほど、動植物の多様性に満ちた空間で、枯れ葉1枚拾ってはいけない聖地である。



5. 光岳以南から始まる特別な空間、ただ看板も倒れかけている・・



6. モミの天然更新が教科書のようなものである

立派な標柱のある百俣沢の頭の分岐を左手に折れ、信濃俣に向かう内に、だんだんとガスも消え視界も広がったため、先を目指すことにする。

信濃俣のすぐ先で道標もある分岐点、榎沢山となる。ここで大きく二手に分かれ、いよいよ左手の深南部最奥部に入る。と、いきなり道をロスト。やはり樹林帯の広い尾根の下りは難しい。下層植物により薄い踏み跡は消失。要所の古いテープも見つからず、コンパス頼りで下って行くも1/25000図等高線の間隔よりも急だ。結局100mほど南にトラバースして正しい尾根に乗った。ふーっである。しばらく進むと、深南部定番、苔むした倒木帯に突入。いい雰囲気だ。乗り越えたりくぐったりもいいのだが、左手に獣道を見つけ体力温存でバイパスを通過。



7. シダ、苔類の競演



8. 苔むした倒木群・・・代表的な光景だ

尾根はだんだんと細くアップダウンを繰り返し、枯れ葉、折れ曲がった木の根、崩れそうな足場ため、気を抜くとプチ滑落となる。

もはや癒しの空間、などという風情を楽しんでいる余裕はだんだんと減少し、いかに無事下山するかで地図、コンパス、高度計（これをヤボとするかは本人次第）、一歩先、周囲、をぐるぐる見ながら緊張の連続する時間が増えていった。

それでも時折見せる、苔むした地表、芸術的な立ち枯れた木の樹形などの景色に、感動しながら時を過ごした。そして本日最後の難関、大根沢山(2239m)が目の前に屏風岩のように立ちはだかった。ここへ来て約450mの標高差である。すでに昨日の疲れを引きずり消耗しきった我が身には、過酷な急登だった。

今回ストック2本を新調したことは、ここで大いに役立ったが、それでも一歩一歩動いていればいつかは頂上、の精神で踏ん張る。



9. 細い尾根が非常に多い。足場が悪く滑落注意だ



10. アザミ沢のコルより。ここを2, 3分下れば水場だ。

大根沢岳の山頂はただっ広く、幕営に適しているが、水場はまたここから約400m下がったアザミ沢のコルまで行かないと補給できない。

山頂部の暗い密林を南西に適当に移動すると、南下する尾根を見つけ、激下り。

途中チェックポイントの分岐点では、やはり2重巻きされたテープがあり、要所における先人の所業に脱帽する。

こうしてルート開拓したんだろうなと思いを馳せる。

コルより東に鋭角で落ちるアザミ沢筋は、シダ植物に覆われ、いかにも湧き水が即調達できそうだ。

動物たちも御用達なのか、いくつもの獣道があり、数分で「南アルプス・深南部の天然水」に出会った。

たっぷり補給し、コルから少し上がった平坦地で幕営、快適で余裕も生まれ、コーヒーを湧かし自然と同化した。



11. 快適なテントサイト



12. 熊対策も本気モードです

<タイム> 光小屋 (5:45) - 信濃俣 (9:20) - 大根沢山 (15:45) - 1850mアザミ沢のコル (17:00-15) - 1930m幕営地点 (17:30)

7/22 (火) 曇り時々晴れ

昨夜は、新兵器「風鈴」のおかげか、深夜のシカ（熊も？）訪問もなく、静かに寝ることができた。体は重いが、本日もまずは大無間岳まで緩いが約400mの登り、頑張らなくては。ここから笹原の三方峰までは、時折視界も開け遠くの峰々も望むことができ、明るく気持ちがいい。ただ西側に所々ガレが発達しているため、ルートは稜線上、と捕らわれすぎ近寄ると危険だ。



13. ガレと奥に三方峰



14. 笹原の三方峰から風イラズ方面。今回最も遠望が効いたショット

だらだら登って大無間岳、いよいよ終盤戦である。小無間岳に向かう立派な登山道に心ひかれるも、深南部縦断のためには、さらに南下し陰悪の山、風イラズ（1990m）を通過しなければならない。その名の通り、風さえ入らない最果ての山ということらしい。アップダウンはあるものの、ゆっくりと高度を落としていく。ただ2000mを切れば、少しは道も歩きやすくなってくるのではないかというもくろみは、大きくはずれた。「深南部、恐るべし」である。テントサイト十分の風イラズ頂上を過ぎ下っていくと、とてつもない急降下が2カ所待っていた。濡れている時には初心者がいたらザイルが必要なほどである。短いガレートは分かりにくい、ガレとブッシュで足場も悪く、ここで捻挫したらアウトと慎重に下る。



15. 風イラズからの悪い急降下



16. 今回少なかった笹藪。消えるのも時間の問題か

それ以降も相変わらず細い尾根のアップダウン、珍しくササヤブと続き、やがて高度を落としていく。尾盛と栗代山方面を分ける分岐点は、薄くテープがあるものの、のっぺりした尾根のため要注意だ。やっと道が登山道っぽくなってくると、尾栗峠。以前はここから西へ栗代林道にも降りたようだが、林道崩壊したため、さらに南下して、ネット情報から1080mのコルを目指す。周りはとうとう人工林となり、深南部と別れを告げなくてはならない。

南北に広いそのコルは、北寄りから西の斜面をのぞくと、うっすらと作業道があるようだ。適当に栗代林道に向けて下ると直ぐに作業道にぶつかり、ジグザグにつないでいく。ピンクのテープもしっかりありこらしくない。そのうちすなおに林道に降り立った。ここにもしっかりとしたテープが垂れ下がっていた。途中林道大崩壊の場所は、すぐ上部に巻き道があり通過、約3km歩き林道入口の自転車デポ地に到着した。足には2匹ヒルがいたが、今回初めてで予想外に少ない。（後でわかったが、手に一カ所、足先には謎の毒虫に連続攻撃されていた。）

残念ながらまだ終わりではなく、車を回収に行かなくてはならない。闇が間近に迫ってくる中、電動アシスト自転車に乗り、沼平まで40km大井川に沿って上流を目指す。充電もぎりぎり持ちこたえ約3時間で走破したが、接阻峡と白樺荘の先の真っ暗な林道は、闇夜に大小いくつもの目が光り、深南部以上にワンダーランドであった。

今回の3日間の行動は、自分の力量を上回り、後半のタイムはペースダウンの結果である。そろそろ気持ちと力のバランスに気をつけて計画を立てないといけない年齢に達していることを、強く自覚した。

<タイム> 1930m幕営地点（5:30）－三方峰（6:45）－大無間岳（8:20）－風イラズ（11:40）－1080mコル（16:35）－栗代林道登山口（17:05）－林道入口（18:45）＝沼平（22:10）

以上